

令和元年度 法人事業報告

平成 30 年度に設定された報酬は、令和元年度も変わらない中でのスタートです。利用者に支払われる平均工賃月額が決定の基準である以上は少しでも工賃を上げていく事業運営をしていかないといけないわけです。そんな状況の中花工房福祉会は、自分の出来ることを活かしながら働きたいと希望する利用者がなんと 100 人の大台に乗り 106 人からのスタートでした。障がい者が自身の特性を活かし働く場を花工房に求め通って来るからには、職員も自身の支援力・技術力を高めていかないと期待される結果を残すことは難しい現状であることを自覚しての幕開けでした。

一方、川中島の地に根つき間もなく設立 20 周年を迎えようとする法人の地域での位置付けも定着し多くの皆様からの応援を頂けるように迄成長してまいりました。以下は、年度初めの運営の重点項目に沿って報告いたします。

1、 人材育成・労務管理

利用者が増えることで、必然的に支援する職員も増えてきました。入職した動機も・技術力も・経験も様々です。そのため事業への思い利用者理解等がちがいそれぞれの良さを十分発揮することが出来ないまま推進してきている現実の中で、まず、小さな集団での話し合いの場から思いを出し合えるように進めました。一方、G 長にはリーダーシップをとれるよう研修を積んでいただきました。

月 1 回は G 長会議を開き、そこでは各 G の現状を出し合い情報を共有しあい改善を図ってきました。

また、勤務時間の中で仕事を終えるためには、どうやりくりしたらいいかも工夫しあいました。設備・備品の有効活用・仕事の分担・その日のことはその日に等試行錯誤しながら少しずつ改善を図ってきました。

2、 経営の安定化

報酬改定による収入減を職員皆に具体的な数字で実感してもらい、各自が出来る、経費の削減・原材料の見直し・事業の拡大・縮小・連携・地域資源の活用を常に意識して活動してまいりました。

一方、念願の各事業所の利用者確保は今年度はクリアーしてスタートをしましたが、途中一般就労をした利用者の補充が出来ず、結果的には定員に満たないまま年度を終了せざるを得ませんでした。また、欠勤しがちな利用者支援もうまくフォロー出来ずに終わってしまいました。障害が多岐にわたる昨今、職員の支援力・魅力ある活動等を今後の課題にして取り組む必要性を感じました。

3、 共同生活援助住宅

令和元年度も、諸般の事情で実現できませんでしたが、一人ひとりの利用者の実態に合わせ、他法人と連携しあい、GH を紹介・入居等有効な支援は出来てきています。一方、さんふれんずは築の年数も立ちあちこち修理・改修等増えてきています。その都度対応をして参りました。短期入所「ゆうゆう」の利用者も増えていることを考えると、検討チームを作って 3 棟目の GH 建設を推し進めていく必要性を感じました。

1、 理事会・評議員会及び監査の開催

(1) 監査

期 日 令和元年5月31日(金)

場 所 花工房エコーンファミリー事務所

監査事項 平成30年度の事業執行状況及び財産状況について、関係帳簿及び証拠書類の照合監査を受ける。いずれも適正であることが認められました。

(2) 第1回 理事会

期 日 令和元年6月4日(火) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 平成30年度事業報告(案)

第2号議案 平成30年度収支決算報告(案)
監査報告

第3号議案 法人事業の現況報告

(3) 第1回 評議員会

期 日 令和元年6月19日(水) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 平成30年度収支決算報告報告(案)
監査報告

第2号議案 理事の選任について

(4) 第2回 理事会

期 日 令和元年6月26日(水) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 理事長の選定について

第2号議案 評議員の推薦について

第3号議案 法人の現況報告

(5) 第3回 理事会

期 日 令和元年9月25日(水) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 法人の現況報告

(6) 第2回 評議員会

期 日 令和元年9月25日(水) 午前11時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

報 告 理事との合同会議(顔合わせ)で法人の現況報告聞く。

(7) 第4回 理事会

期 日 令和元年11月15日(金)

書面決議による

議 題 第1号議案 多機能型事業所エコーンファミリー・短期入所
事業所「ゆうゆう」及び相談支援事業所長選任の件

(8) 第3回 評議員会

期 日 令和元年12月23日(月) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室

議 題 第1号議案 理事の選任について

(9) 第5回 理事会

期 日 令和元年12月23日(月) 午前11時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 法人の現況報告

(10) 第6回 理事会

期 日 令和2年3月26日(木) 午前9時半～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 経理規程の一部変更の件
第2号議案 令和元年度補正予算(案)の件
第3号議案 次期エコーンファミリー・わくワーク所長の件
第4号議案 令和2年度事業計画(案)の件
第5号議案 令和2年度収支予算(案)の件

報 告 1、長野市指導監査報告
2、法人の現況報告
3、洪水時の避難確保計画

(11) 第4回 評議員会

期 日 令和2年3月23日(月) 午前11時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
報 告 令和元年度補正予算の報告
令和2年度事業計画及び収支予算の報告
次期エコーンファミリー・わくワーク所長の報告
緒規程の変更について
洪水時の避難確保計画

2、職員・利用者の動向(令和2年3月末現在)

職員数 74人(正規15人・嘱託16人・パート43人)
採用 16人(正規5人・嘱託2人・パート9人)
退職 8人(正規4人・嘱託2人・パート2人)
利用者 106人(男性71人・女性35人)
入所 6人(男性5人・女性1人)
退所 3人(一般就労2人・死亡1人)

3、事業内容

(管理部門)

- ① 健康管理・健康診断 健康づくり事業団の協力で5月13日・14日
と12月18日・19日に実施
歯科検診 本年度は宮本歯科医の都合で中止
- ② 食事提供 提供日数 236日
川中島 一富士フードサービスに事業委託
一食530円(食事提供加算で実費300円徴収)
朝陽 弁当持参
わくワーク 宝来 3種類の中から選択
炭房ゆるくら デリークック千曲 4種類の中から選択

- ③ 家庭との連携 誕生月の支援会議を実施
花工房だより 年2回発行
連絡ノートの活用
家族会に参加
- ④ 苦情対応 商品への苦情
1件 賞味期限の印字ミス
2件 食パンの焼き加減への苦情
- ⑤ 権利擁護・虐待防止
利用者への言葉遣いで、聞く人によっては虐待ととれる案 件が
発生した。全職員で虐待とはについて研修をおこなった。
- ⑥ 防災安全
避難訓練 8月8日・2月3日に実施
- ⑦ 研修 福祉サービスは、人を相手に人が行う対人サービスなので
勤務年数・携わる事業内容・担っている立場による研修を実施して来ま
した。
新入職員 集中研修（花工房福祉会の歴史・諸規定・社会人とし
のマナー・支援の仕方等）
中堅職員 他県の工賃アップセミナー・販売力向上セミナー
中堅職員課程研修・施設外就労による障がいのある 人の
働き方
リーダー職員 リーダー養成ゼミ・サービス管理者研修・
虐待防止リーダー職員研修
専門研修 発達障がい者就労支援研修・HACCPの考え方
衛生管理者研修・基板ネットワーク研修・
苦情対応システム研修・農業労働力確保支援研修
令和元年度福祉就労拡大モデル構築事業（県支援）
- ⑧ 地域交流 地域に開かれた事業所として、地域の社会資源としての
機能を備えた事業所を目指してきました。
交流 川中島地区民生児童委員・川田小4年生・川中島小6年生
信大付属中2年生・川中島中福祉委員
実習 長野大学生・社会福祉専門学校生・長養生・稲養生
長野市立長野高校生・川中生・篠ノ井東中生・広徳中生
付属中生・付属養護学校生
視察 千葉県障がい者就労事業振興センター・日本セルプ士
NPO 法人 UNE スタッフ・相模原市民生児童委員

（事業部門）

- ① 日中活動支援事業
多機能型事業所 エコーンファミリー（川中島・今井・朝陽）
生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型
就労継続支援B型 わくワーク（三輪）・炭房ゆるくら（篠ノ井）
- ② 共同生活援助事業 「さんふれんず」・「さくら」

③ 短期入所事業 「ゆうゆう」

④ タイムケア事業

⑤ 相談支援事業

①～⑤までは、別紙にて報告

多機能型事業所エコーンファミリー事業報告

1、方針

年度当初の方針にそって、事業所としての「居場所」そして「活動の場」という役割を皆で共有しながら一年間事業を進めてまいりました。

その中でも、障がい者といえども地域で当たり前の生活が出来る所得を保障するを目指して日々実践してまいりましたが、途中管理者不在の期間があったり・10月の台風の影響等でイベントが軒並み中止となったりで、自主製品の販売が思うようにいかず苦戦の1年間でした。

2、重点目標

(1) 障がい者一人ひとりが安心して日常活動が送れるサービスの質の向上

障がい特性をしっかりと見極めて、G編成を行い職員の配置も支援度によって適切に配置してきました。また作業も慣れによる効率アップを考慮しながら、新しい仕事の確保等でサービスを提供してきました。

その結果、利用者の出勤率は90パーセント前後を維持し、それぞれの活動の場で生き生きと働く姿が見られました。

(2) 事業の安定化と効率化

工賃アップを目指して事業展開をして参りましたが、当初から業務委託の製造商品の契約が打ち切られるとわかっていたはずでしたが次の手立てが、1年間探せないまま過ぎてしまい大きな減算を招いてしまいました。又日ごとの売上げには注意を払ってきましたが経費部分の支出を組み込めなかったためこちらも減算に上乗せしてしまう結果になりました。

新しく、フードプリンターを導入して新規事業に期待をかけたのですが有効活用にはまだはいけませんでした。又、職員の技術力アップも徹底できないまま終わってしまいました。

(3) 地域住民との連携強化による障がい者理解促進

近隣小中学校との交流は、作業も含め順調に推進できました。

民生児童委員との交流は、有効な障がい者理解の場ではありますが今年度も成果をあげて、夢まつりでは販売員としてお手伝いまでいただきました。企業とは施設外就労の場・作業の業務委託等年々増えているように思います。

3、事業内容

職員・利用者数（令和2年3月末現在）

職員数 50人（正規12人・嘱託10人・パート28人）

利用者数 67人（男性42人・女性25人）

4、日中活動支援

(1) 生活介護事業（A・B） 20人（23人）

(2) 就労継続支援B型事業(はやぶさ・フライル・パン・朝陽) 34人
(40人)

(3) 就労移行支援事業（はやぶさ）6人（4人）

各事業の事業報告は、別紙による。

5、 余暇活動支援

1日レク 今年度は、生活A・B・はやぶさが実施

ハーモニー夢まつり 10月26日(土)に実施

土曜活動 年間29回行う（担当職員の特技を生かしたメニューで実施）

水泳教室 年間10回行う（9月以降は工事・台風被害の為使用不可）

音楽療法 年間20回行う（2月以降はコロナ関連で中止）

6、 工賃支給

	平成30年度	令和元年度
売上総額	54,298,549円	49,364,143円
工賃支払総額	21,818,700円	20,691,500円
平均工賃額	27,784円（67人）	26,189円（66人）
就労継続B型	35,201円（37人）	33,247円（40人）

生活介護（Aグループ）事業報告

1. 重点目標

- ① 作業や活動を通して、地域交流・障がい者理解の推進を实践する。
- ② 家庭と連携を図り、利用者一人ひとりの健康や特性に留意し、個々の意思を尊重した生活習慣の支援。安全を最優先とし、安心して過ごせる環境を整える。

2. 利用者・職員数（令和2年3月末日現在）

利用者数 10名（生活介護 10名）

職員数 6名（サービス管理責任者1名/生活支援員4名/看護師1名）

3. 事業成果

- 生活全般支援／健康管理、食事、更衣、排泄等
- 配達・販売／パン・豆腐・花等の配達、販売
- 回収作業／牛乳パック・古紙・アルミ缶の回収、分別
- 施設内活動／小物作り・音楽療法・ダンス教室・料理体験・花壇作り
季節行事・誕生日会・アート活動
- 施設外活動／水泳教室・バス外出・カシス・ブルーベリー畑の管理 など
- 地域ボランティアの協力による活動／レク外出時の付添い、夢まつりの運営・付添い
- 交流 等／川中島地区民生児童委員・川中島中学校福祉委員会・職場体験実習
受入夢まつり
- 外出レク活動
 - ◎ 1日レクリエーション：
上越水族館（6月／AB合同）
 - ◎ 半日レクリエーション（外食レク）：
お花見外出（4月）、アグリパーク（7月）、白鳥園（8月）、聖高原（11月）、
クリスマス会（12月／AB合同）、新年会（1月）、ナイスハートバザール参加（2月）、
まどめの会（家族参加有り）（3月）

4. 売上結果 【 総売り上げ目標：1,720,000円 実績：1,448,097円 】

① 小物部門

（小物・カシス・ブルーベリー、糸コン、スープ等の売上分）

目標：1,350,000円 実績：1,168,584円

② 受託小物部門

（パン受託配達、ワゴンカフェ コーヒー代、資源回収・ロンドロール・自動販売機手数料、他）

目標：370,000円 実績：279,513円

生活介護（Bグループ）事業報告

1. 重点目標

- ① 移動販売車の販売先開拓、定着
- ② 利用者一人一人の社会性、能力に応じた適材適所の作業配置の取組み、それに伴った職員配置をする。

2. 利用者、職員数

利用者 12 名（生活介護 12 名）

職員数 12 名（内 サービス管理責任者 1 名 生活支援員 9 名
職業指導員 1 名 看護師 1 名）

3. 事業内容

- ① 移動販売車（篠ノ井、若穂、柳原、浅川、中条、新町、三輪、信更等）での販路新規開拓をし、地域の中で移動販売を定着させていく。
- ② 健康管理、食事、更衣、排せつ等、生活全般の支援。
- ③ 会員へのお豆腐配達、定期販売、営業
- ④ 大豆の栽培、野菜などの栽培
- ⑤ 受託作業（ポストイング、マルキ醤油ラベル貼り等）
- ⑥ 余暇活動（水泳、音楽、ダンス、北レク、イベントへの参加、レクリエーション）

4. 事業成果

- ① 移動販売は、開始して 2 年になり曜日ごとに行き先を変えて販売する形もだいぶ定着してきている。利用者さんも販売時に地域の方と交流出来る貴重な機会となっている。
- ② 利用者さん職員共に、販売が得意な人は販売に、畑作業が好きな人は畑にと、一人一人が個々の力を発揮し、楽しく作業が出来るよう配慮した。
利用者さんには計算が出来る人は計算を、袋入れが出来る人は袋入れを行ってもらなど、出来る事をやってもらうことで達成感を味わってもらうように心がけた。

4. 売上結果

豆腐：目標：¥7,950,000	結果：¥6,860,374
麺類：目標：¥450,000	結果：¥237,650
野菜：目標：¥50,000	結果：¥55,965
受託：目標：¥30,000	結果：¥74,256

合計 ¥7,228,245

就労移行事業 事業報告

1. 運営方針

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対して一定の期間にわたり、個別支援計画に基づいて生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、その他便宜をはかり適切な支援体制を検討し、利用者の就労への移行を支援していきます。

2. 利用者・職員数（令和2年3月末日現在）

利用者：定員 6名 現員 5名

職員数：サービス管理責任者 1名

就労支援員 1名

職業指導員 1名

生活支援員 1

3. 事業成果

① 施設外就労を中心に、企業で「働く」機会を提供することで、個々のスキルアップにつながった。

○施設外就労先 12件

（内新規2件 信州バイオファーム・災害復旧支援農業ボランティア）

② 個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりの特性、強みが活かせる作業への配置、作業工程が分かりやすくなるように手順書の見える化をするなどの支援を行った。また、それぞれの課題も明確にして本人、家族と共有し課題克服できるよう支援を行った。

○就労アセスメント：6件

○就職面接：1社（ビッグメイク）

○合同企業説明会（10月29日）への参加：1名

○ハローワークへの新規登録者 3名

○障害者就業・生活支援センターへの新規登録者 2名

○就職者のフォローアップ支援：9名 適時

4. 実績

就職者（トライアル雇用） 1名

就労移行・就労継続B型 はやぶさグループ 事業報告

1. 重点目標

- ① 施設外就労に特化する。
- ② 社会性や働く力を向上させながら、楽しく工賃を稼ぎ、将来自立生活を送れるよう支援する。

2. 利用者・職員数（令和2年3月末日現在）

利用者 15名（継続B型12名、就労移行3名）

職員数 7名（正規2名、嘱託2名、パート3名） 3月31日現在

3. 具体的事業内容

- ①施設外就労…山崎農園、匠電舎、福田青果、平成農園、小山農園、中村農園、丸善ファーム、藤澤農園、さんさんファーム等
- ②受託作業…ヤマト、エコアンドクリーン、タイムズ福豆、メール便、サンマリーン清掃、パソコン解体等
- ③販売、リヤカー販売
- ④一般就労支援及び就労学習会

4. 売上結果

①売上目標 施設外就労…3,500,000円 売上結果 4,772,632円

②売上目標 受託作業…1,700,000円 売上結果 1,041,037円

5 事業成果

- ・施設外就労では、夏のケール収穫や冬に小松菜収穫などの作業を中心に売り上げにつなげ、目標より大きく結果を出すことができた。
- ・パソコン解体作業では、パソコンの部品を買い取っていただける会社との連携がうまくいかず、売り上げにつながるものが少なかった。
- ・施設外就労では、お世話になっている畑の人に教えてもらいながら、一緒に作業をすることにより、相手とのコミュニケーション力や、社会性、働くということを学ぶことができた。

就労継続支援 B 型 フライルグループ 事業報告
(Flower&Smile グループ)

1. 重点目標

- (1) 利用者一人一人の個別支援計画に基づく作業の場を用意し、その特性が充分発揮されるよう支援を行なっていく。
- (2) 将来地域で自立した生活が出来るような十分な工賃が支払えるよう、一日一日の売上をしっかりと把握し、売上目標を達成していく。
- (3) 地域の方たちの障がい者理解を進めていく上でも、地域の活動には積極的に参加し、地域の方たちに支えられながら仕事をしているという感謝の気持ちをもちながら毎日元気よく仕事をする！

利用者・職員数 (令和 2 年 3 月 31 日現在)

利用者 20 名 (継続 B 型 19 名 就労移行 1 名)
職員数 6 名 (正規 2 名 嘱託 2 名 パート 2 名)
(サービス管理責任者 1 名・目標工賃達成指導員 1 名
職業指導員 2 名・生活支援員 2 名)

2. 業務内容

- ・ハウス作業 (花生産・管理、植栽・草取り、フラワーギフト、鉢花作り)
- ・販売・配達 (県庁ワゴンカフェ・販売箇所=20 箇所 (1 ヶ月) / リヤカー販売=3 箇所)
- ・下請け作業 (ノバフォーム・佐川急便内職作業・アイデア・労金 等)
- ・清掃作業 (桃の郷・長野駅喫煙所)
- ・余暇活動 (音楽教室・ダンス教室・水泳教室・レク年 1~2 回)

3. 年間売上目標

- ・受託、清掃 部門・・・850,000 円 結果；1,054,545 円
- ・花 部門・・・・・・・・・・6,000,000 円 結果；4,813,358 円

事業成果

- ・ハウス作業では春にはベゴニアとペチュニア、秋にはパンジーとビオラを育て、リヤカー販売や注文販売を行った。県庁プランターや企業 (コヤマ・礎建装・印刷商工・トヨタなど) の花壇に植栽させていただいた。
- ・フラワーギフトは企画・営業の開始が遅く、例年並みに売り上げることが出来なかった。今後はもっと早くから企画し営業をかけていくことで売り上げにつなげていきたい。
- ・草取り作業では、昨年度に引き続きドコモ様に加え、新規で個人宅からも依頼があり作業させていただいた。
- ・利用者さんの特性を生かした作業配置や、時には利用者さんの希望も取り入れながら作業配置を考え、利用者さんたちが毎日イキイキと出勤出来る環境づくりに努めることが出来た。
- ・受託・清掃部門では定期的に仕事をいただき、大きなトラブルなく終えることが出来た。新規作業として、倉島事業開発様からも月に一度封入作業の仕事をいただけるようになった。比較的ルール等も簡単な作業のため、普段なかなか内職に参加出来ない利用者さんも挑戦することが出来た。

就労継続(パン・スイーツ)事業報告

1、 重点目標

- ① パン、スイーツは収入の主であることを忘れずにお客様から「美味しい」と言ってもらえるように日々技術を向上する。
- ② 「働きたい」の思いを支援し、「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを利用者さんと職員が共有できる支援を行い、職員が行っている作業は、いつか利用者さんも行えるように技術向上を図る。

2、利用者、職員数

利用者 7名 (内 継続B型 7名)

職員数 11名 (内 正規 3名 嘱託 1名 パート 7名)

3、 具体的事業内容

- ① パン、サンドイッチ類の開発、製造、販売
- ② ビオクラ食養など受託スイーツ製造
- ③ スイーツ類の開発、製造、販売
- ④ 利用者の技術向上

4、 売り上げ目標

- ① 23, 384, 602円
- ② 2, 200, 710円
- ③ 545, 000円

総売り上げ結果26, 130, 312円(わくワーク、ゆるくら分を含む)

事業成果

- ・9月からビオクラ食養の受託がなくなり、受託スイーツの製造が少なくなってしまった。
- ・新作のパンやスイーツは市場を調査し定期的に製造することができた。
- ・スイーツは既存の商品を味や形を変えて販売し、売りに繋がった。
- ・フードプリンターの注文は幼稚園他、学校関係の行事に少量だが注文が来た。
- ・利用者の得意な成型を新作パンに盛り込み、利用者の成型に対する責任を持てるように作業内容を工夫した。
- ・ギフトでは毎年製造しているものではなくケーキや、プリンなど今ある設備で製造できるものにするによって利用者だけでなく販売先等の一般企業からも注文を頂くことができた。
- ・パン以外にもシフォンケーキなどスイーツをパンの代わりとしてのせることで昼過ぎに行く販売先にも対応できるように工夫した。

朝陽事業所 事業報告

1. 重点目標

① 事業内容での重点

地域に根付いたエコーンファミリー朝陽事業所・おまめ喫茶そいていとなるよう、地域の方たちとの関わりを大切にし、集客に努める。

② 利用者支援に関わる重点

集団生活や仕事をする上で必要なマナーや礼儀を身につけられるよう、地域の方々や仲間との関わりについて重点的に支援をしていく。

2. 利用者・職員数（令和2年3月末日現在）

- ・利用者数3名（就労継続支援B型3名、生活介護1名）
- ・職員数4名（内 正規職員1名、嘱託職員1名、パート2名）

3. 事業成果

- ① 毎月第1木曜日の午前2時間は、朝陽地区住民自治協議会様主催の認知症オレンジカフェ、名称「まめカフェ」として喫茶を貸し出した。デザートとドリンクをご提供。喫茶にお客様が入りきらないほどご利用いただいております。「まめカフェ」として「おまめ喫茶そいてい」が周知されている。また、“喫茶貸しスペース”の宣伝に力を入れたことにより、「歌とギターの会（月1回）」の皆様やその他会議などで喫茶貸切のご予約をいただけるようになった。お一人様ワンドリンク+デザート（500円）をお付き合いいただき、集客につながった。今年度から休日営業の代わりに毎週水曜日1,000円の食事会を実施した。各会10名～15名のお客様が来られ、盛況であった。利用者さん関係の保護者の方の集まりの食事会などで利用して頂けた。
- ② 充填豆腐については、「夏ギフト」と「冬ギフト」を企画・実施した。ギフトに関しては不定期に欲しいお客様もいたので継続して行った。
- ③ ビオクラクッキーのシール貼りでは、利用者さんも確実な向上が見られた。皆、とても安定して作業に取り組むことが出来たが、7月にビオクラクッキーのシール貼りがなくなってしまった。それに代わる作業がほとんどなかった。ほっとパルのポスティング作業は毎月定期的にお仕事をいただくことが出来、事故や怪我なく安全に行うことが出来た。

4. 売上目標

売上結果

① 豆腐・・・・・・・・・・	260万円	2,280,414円
② 喫茶営業・・・・・・・・・・	110万円	896,400円
③ ビオクラクッキー・ほっとパル、その他受託・・・	20万円	103,437円

就労継続支援B型事業所 わくワーク事業報告

1、重点目標

(1) 事業内容での重点

社会に必要とされ、役に立っていると実感できることを前提としながら、所得の保障が望める事業を実施し、高い工賃の支払を目標とする。

(2) 利用者支援に関わる重点

利用者さん一人ひとりの「その人らしさ」を踏まえながら個々のニーズを的確に汲み取り、サービス等利用計画と個別支援計画に沿って支援を行ない、「その人らしく」生きる事を支援する。

2、職員・利用者数（令和2年3月末日現在）

- ・利用者：定員20名
 ：現員22名
- ・職員：7名
 - サービス管理責任者：1名
 - 生活支援員：1名
 - 職業指導員：4名
 - 目標工賃達成指導員：1名

平成31年4月 採用1名 令和元年5月 退職1名、採用1名
令和2年3月 退職1名

3、事業結果

- (1)利用者さん一人ひとりが“必要とされている、役に立っている”実感が持てるように、「くらじか豊農栽培管理」「ころぼっくる」等の地域産業に寄り添った事業を積極的に取り入れた。また、本年度から新たに取り入れた「れんがはうす」の菓子箱加工においては、加工工程を分担することで、障害特性や身体的特徴等により繊細な作業があまり得意でない方にも参加していただくことができた。
- (2)新たに借りた一部屋を作業専用として活用したことで、以前よりも広々とした空間でのびのびと活動できるようになった。また、お互いの動きが把握しやすくなったことで、利用者さん個々の進行度に合わせた技術指導や、スムーズな作業遂行が実現できた。加えて、業務に対する責任感およびモチベーションの向上を実現するため、利用者さんの“やりたい”を尊重し、作業配置へとつなげた。

4、売上結果

	平成30年度	令和元年度	
売上総額	7,631,383円	7,596,572円	▲34,811円

就労継続支援B型事業所炭房ゆるくら事業報告

1. 重点目標

(1) 事業重点

- ①循環型林業による total win のモデルを進化させていく。
- ②ガーデニングクリエイト部門における施設外就労、個人庭園の樹木剪定、草刈りに力を入れ 地域機関、個人客への社会貢献と工賃向上を目指す。

(2) 利用者支援重点

- ①個別支援を中心にそれぞれの思いが形になる支援。
- ②チーム支援（施設外就労では、挨拶、身だしなみ、礼儀など習得しながら、一般企業で働く力をつける。）

2. 利用者・職員数（令和2年3月末日現在）

- ・利用者数 18 名
- ・職員数 7 名（内 所長・サービス管理責任者 1 名、生活支援員 2 名、職業指導員 3 名、目標工賃達成指導員 1 名）

3. 事業成果

- (1) ①長野県の森林づくり県民税を活用した、里山整備において、「あさかわの里山と森を守る会」に事務局として関わり、経費の内、指定区域で活用する経費が助成された。今後3年から10年にわたって長期で活用できるものがある。ゆるくらの目指す循環型林業に進展があった。
- ②厚労省管轄の建物周辺の草刈り、エムウェーブ、柵角藤の庭管理、個人宅の草刈り、樹木の剪定作業など新規で参入できるものが増えた。
- (2) ①支援計画に添って支援し、就労適性検査を受けるためのカウンセリングを機関で実施し、それぞれのニーズに沿う支援を計画的に実施した。利用者1名就職できた。
- ②様々な施設外就労の計画を立て、実施できた。（エムウェーブ、角藤、DL D、小出きこの園、コカコーラなど）

4. 売上目標・成果

令和元年度	売上目標	売上結果
(総額)	12,000,000 円	11,130,474 円
薪炭事業	3,650,000 円	2,921,857 円
施設外就労	8,000,000 円	8,048,205 円
野菜（大根、白菜等）	50,000 円	16,380 円
花豆、花 その他販売	300,000 円	144,132 円

工賃（月平均）平成30年度	33,506 円
令和元年度	33,935 円

グループホーム「共同生活援助」事業報告

1. 事業方針

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を行なう。

2. 利用者・職員数令和2年3月末日現在)

<利用者>

	さんふれんず	さくら
定員	5名	6名
現員	男性 5名	女性 6名

<職員>

職 種	員数	常勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1		1		
生活支援員	7	2		5	
世話人	8	2		6	
事務員	1		1		

3. 事業成果

- ① 各種生活援助サービスの提供、共同生活介護サービスの提供
- ② 体制 月～日曜 (GW・お盆・年末年始休暇有) 24時間 (夜間支援体制)
→ 年間利用回数 (一人平均) さんふれんず 327回/さくら 238回
- ③ 連絡会議 → 実施回数 年1回 (世話人・管理者・サービス管理責任者)
内容: 利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認
必要に応じてその都度行った。
- ④ 研修 → 暮らし部会 (長野市ふくしネット) や地域支援部会 (知障協) が開催する、管理者や世話人等を対象とする研修会へ参加した。
- ⑤ 余暇活動・地域との連携
→ エコーンファミリーでの土曜活動、レクリエーション
地区の美化活動、ゴミ集積所の当番、誕生日会 (利用者の誕生日に)、クリスマス会 など
- ⑥ 健康診断 → 5月13日 (月)・14日 (火) (エコーンファミリーと併せて実施)

「短期入所事業ゆうゆう」事業報告

1、事業方針 在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障害者に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障害者等及び家族の福祉の向上を図ることを目的とする。

2、利用者・職員数

・利用者31名（内 男性21名 女性10名）
長野市：28名 千曲市3名

・職員数 管理者 1名
サービス管理責任者 1名
生活支援員 2名

3、事業成果

- ①入浴・排泄 必要に応じて介助や見守りを実施した。
②起床・入床 起床時間（6：00～7：00）
入床時間（20：00～22：00）本人の意思を尊重し、援助した。
③脱衣 必要に応じて介助、確認した。
④整容 毎食後の歯磨き援助、介助、確認。洗面の援助、介助、見守り等、個性を尊重した適切な整容を援助した。
⑤食事 栄養と利用者の身体状況や嗜好に配慮し、バラエティーに富んだ手作りの食事を提供した。

<月別利用者数>

4月	27名	5月	25名	6月	26名
7月	25名	8月	25名	9月	27名
10月	28名	11月	25名	12月	24名
1月	26名	2月	26名	3月	26名

（*年間利用者数 延べ 310名 利用回数 620回）

（*利用回数は 1泊2日＝2回 でカウント）

「タイムケア事業」事業報告

1. 事業方針

障害者の日常生活の継続的な支援を図るため、家族の急な用事・都合等の理由により、障害者の在宅での介護が困難な場合において、タイムケアを実施する。

2. 利用者・職員数（令和2年度 3月末日現在）

管理者	1名
サービス管理責任者	1名
支援員	1名（利用状況に応じて増員）
登録人数	長野市 24名（男 15名 女 9名）
	千曲市 3名（男 1名 女 2名）
	須坂市 1名（男 1名）
	飯綱町 1名（男 1名）
	計 29名

3. 事業成果

家族の不幸等の急な都合により、在宅での介護が困難な場合に、職員体勢を整え、当施設でのタイムケアを実施した。

月別利用者数

4月	7名（41.5時間）	5月	5名（40.0時間）
6月	6名（42.0時間）	7月	6名（44.0時間）
8月	5名（31.5時間）	9月	5名（36.0時間）
10月	11名（40.0時間）	11月	9名（44.5時間）
12月	6名（28.5時間）	1月	5名（22.25時間）
2月	4名（19.0時間）	3月	8名（36.0時間）

年間延べ数

77名（425.25時間）

相談支援事業 事業報告

1、事業方針

- (1) 事業の運営に当たっては、市町村・障害福祉サービス事業所・他の関係機関等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善・開発に努める。
- (2) 指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該障害者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行なう。

2、職員数

- ・職員体制：相談支援専門員 1名

3、事業成果

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施

生活状況を把握・理解し、ニーズの把握に努めました。

- ・サービス等利用計画案の作成

特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行ないました。

- ・サービス担当者会議の開催

市町村や障害福祉サービス事業者等、関係機関との連携を図り支援会議を開催しました。学校在学者に対しては新たなサービス利用の相談や手続き等を行ないました。

- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

サービス等利用計画の作成	82件	
	エコーン利用者	75件
	外部利用者	7件
モニタリングの実施	99件	
	エコーン利用者	88件
	外部利用者	11件